

調べ学習発展型 Web 社会科コンテンツ開発

南あわじ市立松帆小学校 教諭 立石 佳史

1はじめに

調べ学習の対象に興味・関心を持たせて、今後の調べ学習をスムーズに行う「調べ学習導入コンテンツ」と、調べ学習のテーマ設定を対話形式で、どの児童にも作成ができる「調べ学習テーマ決定コンテンツ」の2つのWebコンテンツの開発を行った。導入段階における、2つのコンテンツの活用により、いかに児童の意欲が高まったか、また、テーマの質の高まりも検証し、考察を行ってきた。

2「調べ学習導入コンテンツ」の概要

本研究では、4年生社会科の「わたしたちの住んでいる県」という単元で、「調べ学習導入コンテンツ」の開発を行った。兵庫県の「明石海峡大橋」「小野そろばん」「三木金物」「淡路レタス栽培」「淡路人形」についての授業書と授業提示用ファイルを作成した。上記コンテンツ作成に当たっては、すべて現地取材を試みた。現地取材により、児童の興味・関心を引く部分を探り出した。例えば、明石海峡大橋であれば「風に対する工夫」が最も興味・関心を引くことが取材から分かった。何回も通ったことがある明石海峡大橋でも、注意して見ないと分からぬ部分である。あれども見えずという状態である。このあれども見えずというような部分を児童に聞いていくと、対象に興味を持つのではという仮説のもとに、上記の「調べ学習導入コンテンツ」を作成した。



図1 導入コンテンツ画面

3「調べ学習導入コンテンツ」(HTML形式)

上記の導入コンテンツは、電子情報ボード用プレゼンソフトの「Smartnotebook」形式である。したがって、誰でもこのコンテンツを使えるとは限らない。そこで、汎用化を図るため、HTML形式で進められるコンテンツも作成した。この教材は、児童の実態に応じて、質問を変更したい。あるいは、時間が少しきかないので、質問を減らしたい等、さまざまなクラスにも対応できるようにした。

4 調べ学習テーマ決定コンテンツの概要

児童に自由にテーマを決定させると、主語が抜けていたり、単語だけのテーマであったり、あるいは文尾が疑問形でなかつたりと、きちんとしたテーマが作れないという問題点があった。この問題点を解決するために、児童が、個別に自らテーマを決定できるコンテンツ開発の必要性があった。本研究では、このコンテンツを「調べ学習テーマ決定コンテンツ」と呼ぶこととする。したがって、「テーマ決定コンテンツ」のねらいは、あたかも、先生と自分が対話しながら、テーマを決定していく、自分の調べたいテーマが容易に作成できるようになることである。そのために児童との対話形式にし、自分の意志で決定できる場面をできるだけ多く作った。この「調べ学習テーマ決定コンテンツ」で、たくさんテーマを作る経験をさせ、いざれは自分でテーマを決定できるようにさせる。



図2 テーマ決定コンテンツ画面

また、このテーマ決定コンテンツは、幅広い学習テーマに対応するために、合計400を超えるテーマを選べるようにした。そのため、データ管理は、Excelで行なうようにした。調べ学習のテーマをデータベース化し、簡単にデータを管理し、編集できるようにした。

5 みんなのテーマを見る機能(閲覧機能)

上記コンテンツと連動して、テーマができた児童は、Web上でみんなのテーマを見ることができるようになっている。みんなのテーマを参考にし、自分のテーマを決定するのである。ノートパソコンにウェブサーバ機能を持たせて、FLASHの画面と連動させて、それを可能にしている。この「みんなのテーマを見る」機能で、児童は、友だちの意見を参考にしたり、また、こんな考え方もあるんだ、というようにテーマの再考していた。コンテンツを使わない場合は、このようなことは不可能であった。

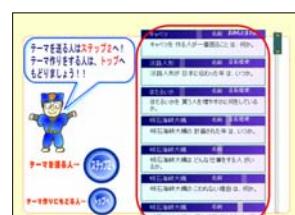


図3 閲覧機能画面

6 成果と課題

2種類のコンテンツを使用して、調べ学習の導入を行ったが、コンテンツを使わない場合と比べて、テーマの広がりが見られた。まず、導入コンテンツで、児童は驚きを持って対象を見るようになる。そして、テーマ作りでは、通常、言葉にはしにくいが、興味・関心があるという内容が、いとも簡単に調べ学習のテーマにすることことができていた。児童の内なる興味・関心を引き出すにはたいへん有効であった。

しかし、そのテーマだけでは、若干、その質に偏りが見られた。それは、外観から引き出せるテーマが少なくなったからである。そこで、本Webコンテンツに写真資料・実体験をプラスすることで、より広い範囲のテーマが出て、その後の調べる段階へとスムーズに発展していくということが分析から分かった。今後、さらなる修正を加え、実践を積んでいきたい。